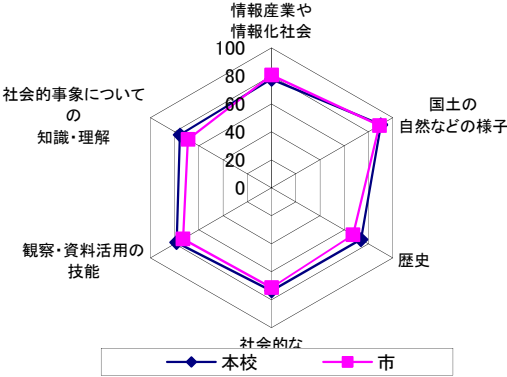


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	77.7	80.5
	国土の自然などの様子	90.1	89.0
	歴史	73.9	67.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.6	71.3
	観察・資料活用 of 技能	78.3	73.1
	社会的事象についての知識・理解	75.6	69.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
わたしたちの生活と情報	情報と産業の関わりについての問題の正答率が市の平均と比べると8%程度低い。身近な事象を例に、生活と産業、情報との関わりを考察する力が弱い。	コンビニエンスストアなどの身近な例を授業で扱うことで、情報や産業がどのようにわたしたちの生活に関わっているかを具体的に考察できるようにする。
わたしたちの生活と環境	国土や自然の様子についての問題はよくできている。森林のはたらきや環境汚染を防ぐ活動についてもよく理解している。	国土や自然の様子については繰り返し復習することで、確実に定着させる。環境問題の原因を考えさせることで、森林のはたらきや環境汚染を防ぐための具体的な手立てについて考えられるようにする。
大昔のくらし	米作りが始まったころの生活の様子についての理解度はやや低い、そのころ使われていた道具についてはよく理解している。	弥生時代の生活について縄文時代の生活と比較しながら考えさせ、その時代の特徴を明確にすることで、知識のさらなる定着を図る。
天皇中心の国づくり	古代の日本で活躍した人物について、時代順は理解している。聖徳太子についての正答率は、市と校内の平均が40%程度と低くなっている。	時代と人物、成し遂げたことが一致するように、年表などを活用して、復習する。歴史上の出来事がどうして起こったかを考えさせることで、学習内容のさらなる定着を図る。
武士の世の中	全ての問題で理解度が市の平均を大きく上回っている。特に、武士の生活の様子や武士と将軍の関係についてが正答率が90%以上と、とてもよく理解している。	資料などを活用しながら繰り返し復習することで、学習内容のさらなる定着を図る。
今に伝わる室町文化	足利義政や書院造などの和室のつくりなどについてよく理解している。	現在の日本の家のつくりや文化と比較しながら学習することで、学習内容のさらなる定着を図る。
天下統一と江戸幕府	全ての設問で正答率が市の平均を上回っている。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が行った天下統一のための政策についてよく理解している。	3人の武将を比較し整理しながら復習させることで、学習内容のさらなる定着を図る。
江戸時代の文化と学問	蘭学についての問題の正答率が市の平均よりも4%程度低かったが、その他の設問の正答率は市の平均を大きく上回っている。特に、伊能忠敬についてはよく理解している。	江戸時代の文化について表に整理するなどして復習させることで、人物と偉業が一致するようにさせる。現代の生活の様子や文化とも比較させることで、学習内容のさらなる定着を図る。
明治維新と世界に歩み出した日本	不平等条約を改正した陸奥宗光と小村寿太郎についてはとてもよく理解している。自由民権運動との関係の深い資料を指摘する問題の正答率がやや低い。	明治維新前後に活躍した人物や政府、国の動きについて時代順に沿って復習させる。自由民権運動が起こった経緯などを考えさせることで、明治時代の政治の混乱について理解できるようにする。
日本の外交史	全ての問題の正答率が市の平均を上回っているが、複数の資料を読み取り、共通項を読み取る力や時代を横断して考察する力が弱い。	複数の資料から、共通項や違いなどを読み取る活動を普段の授業で多く取り入れるようにする。資料から読み取ったことを基に考察できるような力を身に付けさせる。